Freixo de Espada à Cinta

について

写真: CM Freixo de Espada à Cinta

英語で「Ash Tree with a Sword around its Middle（真ん中に剣を持ったトネリコの木）」という意味のこの町の奇妙な名前には、いくつかの説明が考えられます。ゴシック貴族の名前「Espadacinta（エスパーダシンタ）」に由来するという説もあります。スペインの国章にある、トネリコの木と剣を特徴とするレオン出身の貴族に由来するという説もあります。また、ポルトガル王ディニスが14世紀にこの町を築いたとき、剣をトネリコの木に結びつけ、その木に寄りかかって休んだという伝説を引き合いに出す人もいます。この大木は500年以上前から町のメイン広場にあり、じっくりと見る価値があります。

町の歴史的中心地の見どころには、1376年にフェルディナンド王が建設を命じた中世の古城の唯一の遺構である七角形の塔（別名トッレ・ド・ガロ、雄鶏の塔）、16世紀にマヌエル1世の命で建てられた聖ミカエルに捧げられた大教会、慈悲の教会（16～18世紀）などがあります。イベリア半島で唯一、100%手作業でシルクを生産している地域であることを再認識できるシルクと領土博物館、詩人ゲッラ・ジュンケイロの家、カサ・ジュンケイロ地域博物館（彼の父の家）を訪れれば、この地域の伝統と人々について理解を深めることができます。
Igreja Matriz e Torre Heptagonal © TCドウロ区画地域に位置するこの地域は、春にはアーモンドの木が咲き誇り、特別な美しさを見せます。ドウロ国際自然公園を含み、スペインとの国境を越えて広がるこれらの景観を見渡すには、標高550mに位置する巨大な岩、ペネド・ドゥランの頂上にある展望台や、バルカ・ダルバのカイスを見渡すアスマドイロの展望台、そして、より狭く険しい地域のカラスカリーニョの展望台が最適です。そこから数種の鳥を観察することができます。
Miradouro do Penedo Durão © TC運動が好きな方には、景観だけでなく、マズーコの岩絵（マズーコの馬は1981年にポルトガルで発見された最初の野外旧石器時代の岩絵遺跡です）、ネクロポリス、サンパウロ・ヒルフォートなど、さまざまな考古学的発見を鑑賞できるウォーキング・ルートがいくつかあります。リラックスするなら、ドウロの急斜面を眺めながらの船旅や、コンギダ川ビーチでの午後のひとときが最高です。
Cavalo do Mazouco © TC美味しいワインとオリーブオイルが豊富なこの土地では、アスパラガス、ひよこ豆、かぼちゃ、川魚、キャベツと玉ねぎのスープなど、さまざまなスープが含まれるこの魅力的な料理に、訪問者は抵抗するのが大変です。この地方の肉料理では、ミランデサ牛のステーキ、ロースト・キッド、ジビエを使った料理、伝統的なフェイジョアーダのシチューなどが有名です。また、オリーブオイルを使ったパンや、この地域で多く栽培されているアーモンドを使ったスイーツもおすすめです。

問い合わせ先

ウェブサイト： http://visite.freixoespadacinta.pt/

2013 ポルトガル観光局 無断転載・転用禁止
info@visitportugal.com